



©DLE 外務省ODA 広報キャラクター ODAマン

今月のテーマ

スポーツと外交

答えてくれた人



外務省 大臣官房人物交流室 室長 内田立国 (うちだ・たつくに) さん 1984年外務省入省。日本では本省大臣官房のほか総理官邸および迎賓館に、海外ではスウェーデン、シンガポール、スロベニア、アイスランドなどに勤務。2018年より現職。外務省東京オリンピック・パラリンピック要人接遇事務局副事務局長を兼任。



パラ・パワーリフティングの指導者をラオスに派遣し、実技指導や記録会を実施。同競技を通じて、ラオスの障害者スポーツ文化を支援している。



世界的なギタリストで、UNHCR (国連難民高等弁務官) 親善大使を務めるMiyaviさんがバングラデシュを訪問し、子どもたちにサッカーボールを寄贈。サッカーを通して、子どもたちの心身の育成に寄与することが期待される。



南スーダンから空手関係者を招き、防衛省などで空手のトレーニングを実施。南スーダン内戦終結後初めての海外でのトレーニングとなった。



スポーツで国際交流を進めよう

Q2 スポーツ分野ではどんな国際協力を行っているの?

A2 施設整備や人の交流、スポーツ関連器材の提供などを行っています。

体育館や道場といったスポーツ施設の整備は、文化無償資金協力などを活用して以前から取り組んできました。さらに近年、SFTで力を入れている二つの柱があります。

一つは人の交流を促進する派遣と招へい。途上国へのスポーツ指導者の派遣は、とくにパラ・スポーツで重視されています。たとえば2019年夏、ラオスからの要請を受け、スポーツ外交推進事業としてパラ・パワーリフティングの指導者3人を派遣しました。首都ピエンチャンで行ったワークショップには、ラオスのパラリンピック代表候補も含め男女合わせて13人の選手たちが参加し、講義と実技指導を受けました。参加者からは「よりよい結果を出せるようにがんばりたい」「もっと長期で開催してほしい」という声が聞かれました。スポーツを通して障害者への差別や偏見がなくなり、バリアフリーが実現することを期待しています。

途上国の選手を日本に招き、日本の実技指導を学んでもらう事業も多数行われています。南スーダンから5人の若者が来日し、1週間、防衛省などで空手の指導を受けたのは

19年夏のこと。彼らは、陸上自衛隊がPKO活動で南スーダンに駐在していたときに、現地交流の一環で空手を習ったそうです。そんな彼らが成長して今度は日本を訪れる——これも国際交流です。

もう一つの取り組みは、スポーツ関連器材の寄贈です。19年には、バングラデシュの避難民キャンプで暮らす子どもたちにサッカーボールを贈りました。キャンプで何もすることがない状況はテロや犯罪の温床になりやすいです。そもそも子どもたちはどこにいても楽しく遊ぶ権利があります。ボールが1個あればサッカーを楽しみ、チームワークや友情も育むことができます。実際、スポーツをテロや犯罪予防対策に取り入れている事例は数多くあります。

今回の寄贈にはSFTで築かれたネットワークが生まれ、100個以上のサッカーボールやサッカー用品が集まりました。SFTを始めて5年、明確な目標に向かって多くの関係者たちが協力し合い、スポーツの力を活用した世界への貢献ができていると感じています。

Q3 在外公館はどんな役割を果たしているの?

A3 在外公館が築いてきたネットワークを生かし日本と海外のスポーツ界をつないでいます。



トロントの日本総領事館での天皇誕生日祝賀レセプション(2019年)。映像を活用し2020年東京大会をPRした。

在外公館は日本外交の窓口。スポーツ分野でも同様です。たとえば指導者を派遣してほしい、選手を日本に送りたいという他国からの要請は在外公館を通して日本に伝えられます。

2020年東京大会でも在外公館は大きな役割を果たしています。大会の広報や日本の紹介はもちろん、ホストタウンとなっている地方自治体と各国との橋渡しを行い、市民同士の交流などにも協力しています。トロントにある日本総領事館では、19年の天皇誕生日祝賀レセプションで2020年東京大会のPR動画放映やポスター展示を行いました。特産

品や郷土料理を用意し、日本とホストタウンを紹介するイベントを行った在外公館もあります。

日本の代表チームが訪れたときには歓迎のレセプションを開き、その国のスポーツ関係者との交流を促進することも在外公館の大事な役割です。こうしたことを積み重ねていくことで、国際的なスポーツ分野での日本の影響力を高めることができると感じています。

スポーツを通じた国際貢献や国際交流は、多様な人たちが参加でき、楽しく、ワクワクするもの。国内外の力を集め、オールジャパンでこれからも取り組んでいきます。

Q1 外交でのスポーツの役割は?

A1 スポーツは、国際貢献や国際交流に大きな力を発揮します。

2019年、日本はラグビーワールドカップで盛り上がりました。日本各地で出場チームが合宿し、その様子やチームの母国は多くのメディアで紹介されました。スポーツが国際理解や国際交流につながることを多くの人が実感したと思います。

そして今年、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開かれます。「スポーツには世界と未来を変える力がある」と大会ビジョンにあるように、スポーツを通して各国との交流を深め、ひいては世界の平和や安定に貢献することは、日本外交の基本的な考え方の一つです。

今回の2020年東京大会を契機に、スポーツによる国際貢献をさらに推進するため14年から官民合同で「スポーツ・フォー・トゥモロー (SFT)」に取り組んできました。7年間で途上国をはじめとする100以上の国と地域、1,000万人以上を対象にあらゆる世代の人々にスポーツの価値を知ってもらう取り組みで、すでに数値目標は達成されました。

しかし、SFTの達成やオリンピック・パラリンピックがゴールではありません。20年以降もSFTでできたつながりを生かし、スポーツを通じた国際交流や国際貢献を続けていかなければならないと考えています。